シラバス参照

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT1304		
科目名	リスクコミュニケーション論		
担当教員	福田　充		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火２		
講義室	1502	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 Ｅ１　学識と専門技能（70%） Ｉ１　理解・分析と読解（10%） Ｉ２　量的分析（10%） Ｉ３　情報分析（10%）		
教員の実務経験	福田は、2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県の国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。　（第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回、第14回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 ２　進後期 ～　３　発展期		
科目概要・キーワード	国際紛争、自然災害、テロ、大規模な事故、感染症の発生など多様なリスクに対応するための対策の策定と実施、リスクを伴う新たな技術の導入などの政策決定を行う際に、国、自治体、企業、国民などの様々なステークホルダーが関連する知識や情報、立場による見解の違いを共有し、主体的に議論し合意形成を図るプロセスとしてのリスクコミュニケーションが不可欠です。民主国家におけるリスクコミュニケーションの意義と重要性、推進上の課題などを学ぶとともに、制度や法学的な観点を踏まえながら、具体的なシナリオに基づく演習により基礎的なリスクコミュニケーション能力を身に付けることを目標にします。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード　リスクコミュニケーション、リスク　、リスクマネジメント		

授業の趣旨	■副題 現在の様々なリスクに対応するために、そのリスクに関係する利害関係者の役割や立場を理解した上で、適切なリスクコミュニケーションをどのようにはかるべきか、そのメカニズムについて明らかにします。 ■授業の目的 リスクコミュニケーションの理論を社会心理学的アプローチを中心に法学、政治学、社会学など、学際的な幅広い視点から学び、実際の危機におけるリスクコミュニケーションの実態を事例を交えながらその理論について理解することで、リスクコミュニケーションの意義を認識し、実践するための素養と危機の際の課題の解決のための方策を見出す力を身につけることを目的としています。 ■授業のポイント リスクコミュニケーションとは、ある事象がリスクになる可能性を秘めた際、そのリスクにかかわるであろう様々な利害関係者間の調整とそのために行うコミュニケーションのことを指します。この考え方は、実は身を守るろという点では、かなり古くからおこなわれてきたと考えられます。しかし、その重要性が問われるようになったのは、近代以降になります。とりわけ、現代社会のように、自分にとってリスクになりうるようなもの、事象がそこかしこにあるような状況下において（自分自身を守る、ひいては自分の身の回り、自分の組織、自分の社会）、そのリスクが顕在化しないように、リスクにかかわるであろう関係者間の話し合いを行うこと、すなわち合意のプロセスとその合意は非常に重要です。そこで、本授業科目では、災害、パブリック、グローバル、情報の4つの領域に関するリスクコミュニケーションについて検討をしていくことで、上記の目的を達成することを目指します。
総合到達目標	多様なリスクに対応し円滑な社会を築くために、リスクコミュニケーションの有効性ついて理解をし、4領域における実践方法と心得について修得する。 ■リスクコミュニケーションの理論について具体例を述べることができる。 ■リスクマネジメントにおける実践方法について説明できる。 ■リスクマネジメントを実践するためのコミュニケーション能力と態度を身につけることができる。 ■リスクコミュニケーションの理論を用いて社会の問題について課題を振り返ることができる。
成績評価方法	■リアクションペーパー:15回（50%）適応ルーブリックE１、I1、I2、I3 （評価の観点）リスクコミュニケーションの授業で説明した専門用語や事例についての理解を把握するために授業中に5分～10程度の記述問題を解いてもらいます。 （フィードバックの方法）次週の授業の冒頭で解答に関して再度おさらいの形で説明をします。 ■予習復習の成果をふまえたレポート：1回（10%）適応ルーブリックE１、I1、I2、I3 （評価の観点）授業で説明した理論とその理論を用いた分析方法について理解しているのかどうか、リスクコミュニケーションの理論について考察するレポートを実施し、明確に自分の考えを示すことができるのかどうか、確認を行います。特に、授業中の内容を正確に把握した上で、自説が論じられているのかどうかを問います。 （フィードバック方法）小テストの提出後の授業で模範的な回答を例示しつつ、ポイントを確認、説明を行います。 ■期末の授業内レポート：1回（40%）適応ルーブリックE１、I1、I2、I3 （評価の観点）授業で説明した理論とその理論を用いた分析方法について理解しているのかどうか、リスクコミュニケーションの理論について考察するレポートを実施し、明確に自分の考えを示すことができるのかどうか、確認を行います。特に、授業中の内容を正確に把握した上で、自説が論じられているのかどうかを問います。 （フィードバック方法）小テストの提出後の授業で模範的な回答を例示しつつ、ポイントを確認、説明を行います。
履修条件	必修科目のため特にありません。
履修上の注意点	リスクコミュニケーションに関する問題意識を強く持ち、教科書『リスク・コミュニケーションとメディア』をしっかりと読み込んで授業に出席することを望みます。
授業内容	

回	内容
1	①授業テーマ リスクコミュニケーションとは何か。 ②授業概要 リスクコミュニケーション論に関するガイダンスを実施する。リスクコミュニケーションに関する問題意識、リスクコミュニケーションが対象とする領域、リスクコミュニケーションのアプローチについて学ぶことで（E1）、今後の授業内容を理解し、リスクコミュニケーションとは何か説明できるようになる（I1）。 ③予習（120分） 教科書の福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』

		（北樹出版）の序章・1章を読み、リスクコミュニケーションの意義について検討する。 ④復習（120分） 　リスクコミュニケーションに関する基本文献を検索し、調べる。
	2	①授業テーマ 　リスク社会におけるリスクソース（リスク源） ②授業概要 　現代はリスク社会である。ウルリッヒ・ベックのいうリスク社会の実態について説明を受け、現代社会においてどのようなリスクが存在するか、リスクソース（リスク源）の状況について学ぶ（E1）。その学修から、リスクソースが存在することで、それが社会における危機発生の原因となっている現代社会の構造について理解し、自分でそのことが説明できるようになる（I2、I3）。本授業の理解をはかるためにリアクションペーパーを実施予定です。次回の授業の冒頭で回答に関する説明を行います。 ③予習（120分） 　教科書の福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の2章を読み、リスクソースについてノートにまとめてくる。 ④復習（120分） 　新聞記事やネットニュースの中からリスクソースに関するニュースを調べて、どのようなタイプのリスクであるかを考察する。
	3	①授業テーマ 　リスクパーセプション（リスク認知）の諸問題 ②授業概要 　リスクに対して人々がどのように認識しているか、リスクパーセプション（リスク認知）について学ぶ（E1)。リスク社会において、人々がリスクをどのように認識しているかによって社会的対応が大きな影響を受ける。人々のリスクパーセプションの構造について社会心理学的アプローチを中心に学ぶことで、人々のリスクパーセプションのメカニズムについて理解し、自分で説明できるようになる（I2、I3） ③予習（120分） 　教科書の福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の3章を読み、リスクパーセプションについて検討する。 ④復習（120分） 　社会における人々のリスクパーセプションに関する調査研究や調査データについて調べる。
	4	①授業テーマ 　リスクとメディアコミュニケーション ②授業概要 　リスクに関するコミュニケーションにおいて現代で重要な役割を果たすのがメディアである。テレビや新聞，雑誌などのマスメディアから、ネットやソーシャルメディアまで幅広くメディアの役割と効果、影響について学修する（E1）。その学修から、危機におけるリスクコミュニケーションには、防災行政無線などによるクライシスコミュニケーションやハザードマップやイベントなどによるリスクコミュニケーションまで幅広いメディア活用があることを理解し、その活用方法について自分で説明できるようになる（I1、I3）。 ③予習（120分） 　教科書の福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の４章を読み、リスクコミュニケーションにおけるメディアの役割について検討する。 ④復習（120分） 　実際のテレビ番組や新聞記事で，リスクコミュニケーションとして機能している事例を取集し、その機能について考察する。
	5	①授業テーマ 　リスク不安と人々の意識 ②授業概要 　リスクに対して人々はどのような意識を持っているか、リスクリテラシーを高めるために、人々の意識や態度など心理的過程について学修する（E1）。その中でももっとも重要なのはリスクに対する不安意識である。リスクコミュニケーションを有効に実践するためには、人々のリスク不安をコントロールすることが不可欠である。リスク不安と人々のリスク意識の構造について理解することで、自分でその過程について説明できるようになる（I2、I3）。本授業の理解をはかるためリアクションペーパーを実施予定です。次回の授業の冒頭で回答に関する説明を行います。 ③予習（120分） 　教科書の福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の５章を読む。

		④復習（120分） 　人々のリスク不安に関する社会調査、調査データについて調べ考察する。
	6	①授業テーマ 　クライシスコミュニケーション ②授業概要 　実際の危機が発生したとき、人々の生命と生活を守るために人々に避難行動などの対応行動を指示するクライシスコミュニケーションが不可欠となる。そこで、危機発生後のクライシスコミュニケーションの理論と実態について学修する（E1）。特に、自然災害や大規模事故、テロ事件などの危機が発生した後のクライシスコミュニケーションを事例にして具体的に学ぶことで、クライシスコミュニケーションの概念について自分で説明できるようになる（I1、I3）。 ③予習（120分） 　教科書の福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）の５章，終章を読む。 ④復習（120分） 　クライシスコミュニケーションの成功事例、失敗事例について調べて考察する。
	7	①授業テーマ 　自然災害のリスクコミュニケーション ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、地震、津波、台風、水害などの自然災害における人々への警報や気象情報の伝達に関連するリスクコミュニケーションについて学修する（E1)。特に災害に関する気象情報や警報、避難勧告・避難指示などのクライシスコミュニケーション、防災教育からハザードマップ、避難訓練などリスクコミュニケーションまで具体的に学ぶことで、災害におけるリスクコミュニケーションの課題と方策について自分自身で説明できるようになる（I1、I3）。本授業の理解をはかるためリアクションペーパーを実施予定です。次回の授業の冒頭で回答に関する説明を行います。 ③予習（120分） 　参考書『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の1章、２章を読む。 ④復習（120分） 　自分が住んでいる地域のハザードマップについて調べる。
	8	①授業テーマ 　原発事故のリスクコミュニケーション ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、大規模事故の中でも社会においてもっとも甚大な被害を与えうる原発事故のリスクコミュニケーションについて学修する（E1）。原子力に関する社会教育と安全対策などリスクコミュニケーションと原発事故が発生したときの警報や避難行動などクライシスコミュニケーションの両面について学ぶことで（福島第一原発事故、チェルノブイリ原発事故、スリーマイル島原発事故などを事例）、そこから浮かび上がる課題点と方策について自分で説明できるようになる（I1、I3）。予復習に関するレポート課題についての説明を行う予定です（提出方法と要件）。 ③予習（120分） 　参考書の『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』の第4章、5章を読んでくる。 ④復習（120分） 　自分が住んでいる地域に最も近い原発の安全対策、リスクコミュニケーションについて調べる。
	9	①授業テーマ 　犯罪・治安のリスクコミュニケーション ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、社会にはさまざまな犯罪が存在する。暴行や殺人、詐欺、ストーカーなど多様な犯罪に対する防犯の取り組みにどのようなものがあるか、さらにはそれらの防犯のためのリスクコミュニケーションにどのような取り組みがあるか、具体的かつ理論的に学修する（E1）。その学びにより、パブリックセキュリティーに関してどのような課題と方策があるのか自分で説明できるようになる（I1、I3）。本授業の理解をはかるためリアクションペーパーを実施予定です。次回の授業の冒頭で回答に関する説明を行います。 ③予習（120分）2018年の『犯罪白書』の犯罪件数についてインターネットで閲覧してくる ④復習（120分） 　自分が住んでいる地域に存在する防犯の取り組みやボランティアについて調べる。
	10	①授業テーマ 　テロリズムのリスクコミュニケーション ②授業概要

		担当者の実務経験を踏まえて、テロリズムはメディア報道を利用した政治的コミュニケーションである。テロリストやテロ組織がどのような政治的メッセージを社会にアピールしテロ事件によって社会がどのような影響を受けるか、リスクコミュニケーションの観点から学修する（E1）。日本における地下鉄サリン事件、アメリカ同時多発テロ事件やイスラム国日本人人質テロ事件などの事例を具体的に学ぶことで、その問題点と課題について自分で説明できるようになる（I1、I3）。 ③予習（120分） テロリズムとメディアに関連して指定した論文（福田執筆等）を読む。 ④復習（120分） 関心を持ったテロ事件について調べる。
	11	①授業テーマ 戦争・紛争のリスクコミュニケーション ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、戦争や紛争は社会にどのように伝えられているか。テレビや新聞などのマスメディアの時代からネットやソーシャルメディアの時代へと移り変わる現代において、戦争や紛争に関するメディアコミュニケーションがどのような影響を社会に与えたか、アメリカのベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争などを中心に学修する（E1）。その学びから、メディアも含むリスクコミュニケーションの問題と壊滅のための方策について自分で説明できるようになる（I1、I3）。 ③予習（120分） ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争の概要についてインターネットなどで調べる。 ④復習（120分） 防衛省の『防衛白書』の当該事例に関する内容を読む。
	12	①授業テーマ 安全保障とリスクコミュニケーション ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、日本の安全保障も含めた戦争に関する認識はどのような構造になっているのか、他のリスクや世論調査を用いて対比しながら学修する（E1）。その学びから、日本人の安全保障に関する認識の変化と問題点について自分で説明できるようになる（I1、I3）。予復習踏まえたレポートの回答に関する説明を行います。 ③予習（120分） 内閣府の「安全保障法案に関する世論調査」の結果をインターネットで検索し読んでくる。 ④復習（120分） 過去の安全保障に関する世論調査についてNHKの放送文化研究所のデータにアクセスして調べる。
	13	①授業テーマ 情報セキュリティに関するリスクコミュニケーションⅠ ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、パソコンやスマートフォンを通じたネットワーク・コミュニケーションにおいて、個人の情報が流出したり、サイバー攻撃を受けるリスクが高まっている。企業や政府、自治体だけでなく、個人のレベルで情報セキュリティに関するリスクコミュニケーションはどうあるべきか具体的かつ理論的に学修する（E1）。その授業から、情報化社会における問題点について自分で説明できるようになる（I1、I2）。本授業の理解をはかるためリアクションペーパーを実施予定です。次回の授業の冒頭で回答に関する説明を行います。 ③予習（120分） 身の回りにある情報セキュリティに関するリスクについて調べる。 ④復習（120分） 総務省の『情報通信白書』の携帯電話などの情報デバイスの普及状況に関連する箇所を読んでくる。
	14	①授業テーマ 情報セキュリティに関するリスクコミュニケーションⅡ ②授業概要 担当者の実務経験を踏まえて、パソコンやスマートフォンを通じたネットワーク・コミュニケーションにおいて、個人の情報が流出したり、サイバー攻撃を受けるリスクが高まっている。企業や政府，自治体だけでなく，個人のレベルで情報セキュリティに関するリスクコミュニケーションはどうあるべきか、具体的かつ理論的に学修する（E1）。その授業から、情報化社会における、自治体、企業における情報セキュリティーの問題点について自分で説明できるようになる（I1、I2）。 ③予習（120分） 身の回りにある情報セキュリティに関するリスクについて調べる。

		④復習（120分） 総務省の『情報通信白書』を読んでくる。
	15	①授業テーマ リスクコミュニケーションに関する総括 ②授業概要 リスクコミュニケーションとは何か理論的な知見を学び（E1）、リスクコミュニケーションの事例に限らない共通する課題とその方策について自分なりに説明できるようになる（I1、I2、I3）。期末の授業レポート課題の要点と採点に関する話を授業の冒頭で行います。 ③予習（120分） これまでの講義のノートを読み振り返る。 ④復習（120分） リスクコミュニケーションに関する文献について調べて読み期末レポートに活かす。

関連科目	危機管理学概論Ⅰ（RMGT1301）、危機管理学概論Ⅱ（RMGT1302）、リスクマネジメント論（RMGT1303）、インテリジェンス概論（RMGT1305）、ロジスティックス論（RMGT2306）、ヒューマンエラー論（RMGT2307）
教科書	福田充（2010）『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。
参考書・参考ＵＲＬ	福田充（2022）『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。 その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 福田：火曜日・金曜日の昼休み時間　それ以外の時間の場合はメールで事前にアポイントメントをとること。 宮脇：金曜日３限　それ以外の時間の場合はメールで事前にアポイントメントをとること。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント領域：25%、パブリックセキュリティ領域：25%、グローバルセキィリティ領域：25%、情報セキュリティ領域：25% ■危機管理学部と法学とのバランス 危機管理学90%、法学10%

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.